埼玉縣に於ける淺間爆發音響及降灰の分布

埼玉縣熊谷測候所

昭和四年九月十八日午前一時頃の、淺間山爆發に關し、其音響及び降灰に就て、埼玉縣内三百六十八ヶ町村長へ、其模樣を問合せて、得た結果を、こゝに錄して置きたい。但此内五十三ヶ町村は回答しくれなかつた。

まづ「音響を聞いたかどうか」といふ問を發したものに對する返答は、次の樣であつた。これは、問ひ方が拙であつたので、多くは、簡單明瞭に、「聞えた」と答へて來た。併し、なかには、こちらの氣持を察してくれて、聞えた程度や模樣を述べてくれた向も澤山あつたので、幾分たすかつた。

圍答を寄せれくれた三百十五町村の内、音響を聞かなかつたのが、秩父郡大瀧、大椚。比企郡北吉見。北足立郡常光、横曾根、石戸、桶川、白子、戸田、志木、宮原、中丸、三室、川口。入間郡吾妻、南高麗、日東。北葛飾郡豐野、南埼玉郡蒲生、越ヶ谷、大澤の二十一ヶ町村で、音は聞えないが戸障子などの搖ぎで感知した程度のものや、聞えても微弱であつたのや、聞いたものもあるが聞えない者もあるといふ程度の分は、秩父郡白川。比企郡西吉見、松山、出丸。北足立郡原市、小室、與野、大谷、谷塚、大和田、馬室、神根、土合、吹上。入間郡奥富、金子、東金子、吾野、豐岡、大井、藤澤、田面澤、水富、精明

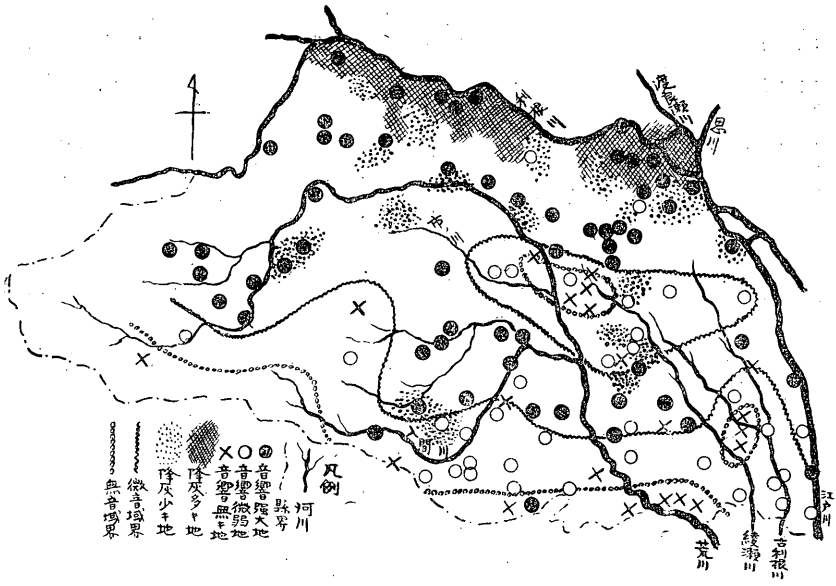
富岡、所澤、北葛飾郡八木郷、三輪野江、彦成、田宮。南埼玉郡大相模、平野、大袋、八條、八幡、篠津及北埼玉郡三俣、南河原の三十六ヶ町村。以上に反して、强烈又は可成り强く又は明かに聞き得しもの、又は驚いて戸外に出る程度の分は、兒玉郡兒玉、大澤、藤田、神保原、若泉、秋平。大里郡本郷、三尻熊谷、新會、明戸、男沼。北埼玉郡共和、原道、騎西、豐野、東、水深、手古林、樋遣川、大越、高柳、三田ヶ谷、村君、埼玉、種足、太井、秩父郡長若、久那、原谷、三澤、尾田蒔、吉田、白鳥、小鹿野、倉尾、比企郡今宿、菅谷、伊草、北足立郡野田、田間宮、大砂土、大久保、三橋、片柳。入間郡名細、高萩、毛呂、松井、原市場、高階、高麗、川角、福岡、勝呂。北葛飾郡早稻田、權現堂川、金杉、幸松。南埼玉郡潮止、小林の六十一ヶ町村で、其他はみな、單に聞えたといふだけであるから、其中には、强く明かに聞えたものもあらうし、また微かなのや戸障子のはためきだけが含まれて居る筈である。

そこで、この、强く明かに聞えたのを◉印とし、聞えないのを×印とし、微弱なのや戸障子のはためきだけなのやを○印として、地圖に記入して見ると、附圖の様な配布となる。

次に、降灰に就て、其有無及び程度を。前同様の箇所へ尋ねて見たところ、回答があつたのが三百十五ヶ町村で「降灰無し」といふのが三百五十六ヶ町村で、降灰が有つたのは次の通りである。

兒玉郡	北泉村	少量あり	兒玉郡	本泉村	殆んど無き程度
〃	兒玉町	所により僅少あり	〃	七本木村	微少あり
〃	（藤田村）	坪當り約一合	〃	（仁手村）	坪當り約三合

兒玉郡	（旭村）	坪當り約一合
〃	（本庄町）	輕微あり
大里郡	深谷町	微少あり
〃	（明戸村）	有り
〃	（岡部村）	坪當り約三勺
〃	（太田村）	路上、桑葉等灰色となる
〃	（男衾村）	僅少あり
〃	（妻沼町）	坪當り約七勺
〃	（新會村）	多し
〃	（八基村）	小砂の如く薄霜より稍少し
北埼玉郡	須影村	坪當り約〇、一勺
〃	北河原村	有り
〃	（東村）	薄霜の如く降る
〃	（樋遣川村）	樹葉上に撒布せる程度
〃	加須町	僅少あり
〃	中島村	まばらにあり
〃	（岩瀬村）	一並べ位砂降る
〃	（川邊村）	少量の砂降る
〃	（村君村）	桑葉薄黑くなる位
〃	（利島村）	一面にあり。桑葉は一時給桑し得づ
〃	太井	若干あるも弱し
秩父郡	原谷村	僅少あり
北足立郡	原市村	形跡あり
兒玉郡	（神保原村）	稍多量、霜の降りたる程度
〃	（賀美村）	坪當り約五勺
大里郡	大麻生村	輕少あり
〃	大寄村	認められる程度
〃	（別府村）	樹葉上に見當る
〃	用土村	僅かにあり
〃	中瀬村	少量あり
〃	（秦村）	相當にあり
〃	（長井村）	約一粒並び
〃	（男沼村）	樹葉に降る音を聞く尺坪に三瓦
北埼玉郡	原道村	少量あり
〃	豐野村	至て稀薄
〃	手古林村	輕微
〃	（大越村）	坪當り五勺位
〃	羽生町	極少あり
〃	（井泉村）	坪當り約〇、五勺
〃	（川俣村）	道路草木白色を呈す
〃	（三田ヶ谷村）	桑葉、屋根瓦、庭等一面に降る
〃	（中條村）	些少あり。村北部に多し
〃	星河村	少量あり
〃	南河原村	極少量
秩父郡	三澤村	少量あり
北足立郡	日進村	少量あり



北足立郡	上尾町	あるが如きも認められぬ程度
〃	吹上町	極めて少量あり
入間郡	高麗村	殆んど無き程度
〃	精明村	多少あり
北葛飾郡	權現堂川村	殆んど無き程度
〃	靜村	砂様のもの僅かにあり
南埼玉郡	大山村	ほんの少量あり

右の内、町村名に括弧を付けてあるのは、其回答の文句から見て、まづ可成り降つたものと見、其他は僅少なものと見られる。そこで前の地圖上にかなり降つた所へ網目の陰影を付け、僅少の所へは砂目を入れて見ると、附圖の様な配布となる。

以上は單に狀況だけで、別に之から纏つた結果を導出することは、本縣だけの資料では、何も出來さうに無い。しかし附圖を觀察すると、降灰の多い區域は縣の北境、利根川沿ひだけであるから、一見、此度の降灰は、利根川の流れと同様に東流したかの

如く見えるが、又一見すると、利根川東流地の上空で灰の流れが淀まされて、こゝが際立つた南界、(降灰地域の)となつた樣にも見える。川の上空が、灰の流れを誘込んだり、淀ませたりすると見れば、圖の砂目の配布の樣に、入間川や荒川に沿つて、所々に降灰少量の地が、點在して居ることも目に付く。また市の川や入間川が荒川に合する地域や、渡良瀬川や思川が利根川に合する地域にそれ〴〵獨立した降灰地があることも目に付く。

いづれにしても、此夜は、西風であつたと見えて、降灰域も、强音響の區域も、東西に延びて居る。音響に關して、縣の南緣地に、微音域や、無音域があるのは此爲めであるとして、別に、縣の東半部の中央に、附圖中鋸齒狀線で圍んである微音域が、其心核部に、無音域を、狹小ながらも包含して存して居ることは音波が、局部的には、かなり複雜に盛衰することを示して居るのであるまいか。